



証券コード:3501

第136期 報告書

2024年6月1日 ▶ 2025年5月31日

SUMINOE REPORT

CONTENTS

トップメッセージ	1
ハイライト	5
連結財務諸表	6
事業概況	7
特集	9
トピックス	11
株式情報	13
ガバナンス	14

 SUMINOE株式会社

SUMINOE Co., Ltd.

昨日と違う
空間を生み出すために。

住江織物は
SUMINOEへ

トップメッセージ



多様な事業の成長戦略と
収益構造の最適化で、
SUMINOE GROUPは
新たな成長ステージへ。

代表取締役社長
永田 鉄平

当期(2025年5月期)の業績

2025年5月期の連結業績は、売上高1,047億91百万円(前期比1.3%増)、営業利益30億1百万円(同9.0%減)、経常利益25億14百万円(同31.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益6億69百万円(同23.4%減)となりました。当期は、国内外の市況変化に直面しながらも、多様な事業ポートフォリオが支えとなり、本業としては底堅い業績を確保することができたものの、営業外費用として連結子会社の為替差損やシステム障害対応費用を計上したことが影響しました。

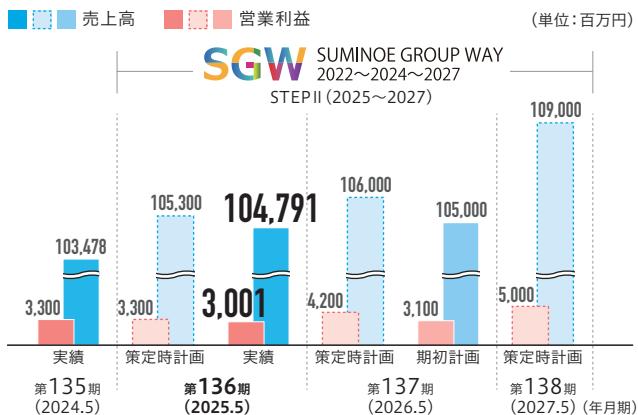
インテリア事業は、旺盛なインバウンド需要を背景に、ホテルやオフィス、商業施設などの大規模物件での内装需要を確

実にとらえ、特に、水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®(エコス)」の環境への取り組みが高く評価され、国内外での販売が堅調でした。また、M&Aで加わったスペースデザインビジネスを手掛ける2社も好調で、空間全体を提案するビジネスモデルも伸長しました。さらに、適正な価格転嫁も着実に実行することで、収益性も改善しました。

機能資材事業は、近年の暖冬に起因する得意先の在庫調整により繊維系暖房商材が大幅な減収となったことに加え、浴室床材の新規受注数減少もあり、赤字を計上しました。ただし、これは計画に織り込んでおり、足元では季節性にとらわれない商材の投入による事業再構築が進行中です。

主力である自動車・車両内装事業は、国内の自動車関連が

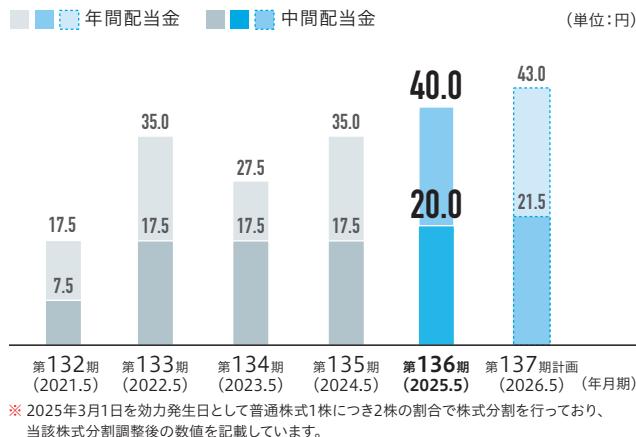
連結数値の推移



堅調に推移したほか、鉄道・バス関連において、人流の活発化や内需・インバウンド需要の回復に伴う鉄道車両の張り替え需要などに着実に対応したことで売上高は前期を上回りました。しかし海外は、前期に終えた北中米拠点での事業再編による生産体制の最適化と販促活動の強化がカーマットの堅調な販売につながったものの、自動車メーカーの生産計画変動に伴う工場の生産効率の悪化や、中国における電気自動車メーカーの台頭による日系自動車メーカーの大幅な減産、東南アジア各国の社会情勢を背景とする自動車の販売不振が重なったことによる影響で、利益は前期を下回りました。

策定時計画対比としては、中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022~2024~2027」の後半3カ年「SGW STEP II (2025~2027)」の方針のもと各種施策を推進したものの、前述した自動車メーカーの生産計画変動が想定以上に長期化したことなどの影響を受け、売上高および各段階損益ともに未達となりました。

配当金



中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022~2024~2027」の進捗と成長戦略

第1期(SGW STEP I)での「種まき」を終え、2025年5月期から「実力の底上げ」を図る第2期(SGW STEP II)に移行しています。2026年5月期の期初計画は、売上高1,050億円、営業利益31億円、経常利益33億50百万円、親会社株主に帰属する当期純利益15億円となっており、SGW STEP IIで掲げる5つの重点テーマである「収益性の向上」「グローバル展開のさらなる強化」「非繊維領域の強化」「経営基盤の強化」「ブランディング」を追求することで、最終年度の計画達成を目指していきます。

収益性の向上については、インテリア事業を中心に適正な価格転嫁や他社と差別化した高付加価値製品の導入を進めており、セグメント利益率の改善につなげていきます。機能資材事業も2026年5月期には黒字転換する計画です。

グローバル展開のさらなる強化では、自動車内装事業を中心に地域ごとの戦略を見直し、柔軟な供給体制を構築しています。北中米や東南アジア、中国などでの市況変化や政策リスクを注視しつつ、外資系自動車メーカーとの取引拡大に向けた動きも着実に進行中です。ベトナム工場では、自動車向けカーペットやカーマットの生産を新たに開始し、稼働率と収益性の向上を両立。次のターゲットとしてインド市場も視野に入れており、自動車産業の成長性などを注視しながら、適切なタイミングで投資判断をしていきます。

非繊維領域の強化では、繊維技術を応用した独自素材の開発や用途拡大を図るなかで、合成皮革を生産するメキシコ工場が本格稼働を開始するなど、非繊維分野の製品供給体制をグローバルに構築しています。もともと繊維との複合素材としてスタートした分野ですが、現在では独立した成長事業として着実に進化しています。

現在の経営環境は予測困難な要素が多く存在します。特に、米国の通商政策による関税問題や、メキシコ・カナダとの貿易協定の行方など、自動車産業に大きな影響を与える可能性のある政策変更が検討されています。こうした環境下でも、目標達成に向けた設備投資や新たなアクションを着実に実行し、成長機会を確実にとらえていく所存です。

社名変更とブランディング戦略の今後

昨年12月に「SUMINOE株式会社」に社名変更してから半年が経過しましたが、お客様への浸透はスムーズに進んでいます。伝統を背負った織物会社というイメージの社名から、アルファベットの社名に変わったことで、私たちが目指す「変

化」や「革新」に対し、市場から前向きな印象を持っていただけたのではないかと感じています。今後、最も注力していくのはSUMINOEブランドの確立です。特に、消費者との接点が多いインテリア事業をブランディングの中心に据え、当社グループの製品が提供する価値や快適な空間を、広く社会に訴求していきます。将来的な展望としては、このブランディング活動に邁進することで、自動車内装や車両内装、機能資材といったOEM中心の事業においても、部品メーカーとしてではなく製品全体の価値向上に貢献できるブランドとして、お客様が選びたくなる存在となることを目指します。

サステナブルな経営基盤づくり

当社グループでは、ペットボトル由来の再生繊維「スミロン®」や水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®（エコス）」を通じて推進する、企業の枠を越えた持続可能な社会への取り組みをはじめ、ESGに合った企業活動を引き続き強化しています。社会課題解決という点では、水濡れ検知システム「Swetty」の応用開発を進めています。水濡れ・ムレ状態のみならず乾燥状態も検知することができ、介護分野でのおむつ取り換えタイミングや、各種施設での水分管理、工事現場での漏水・乾き検知なども可能です。さらに、産学連携でヒトとモノを判別するセンサの開発も進めており、幅広い分野における活用可能性を探求しています。

人的資本経営としては、「ツナグ」をキーワードに、部門の垣根を越えた連携や若手の育成に注力しています。社員の視野が広がり、グループ全体の事業を理解することで、価値創造に貢献できる人材が育っています。また、「モノづくり思想」

を次世代に継承する研修カリキュラムも充実させ、外部から仕入れて販売する商社的な視点に偏らないよう、自社製品を深く理解できるようにしています。併せてグローバル展開や新たな発想、イノベーションを加速する上で不可欠な、外国人材の採用も進んでいます。各部署に配属・登用し、現場での連携を深めることで、真のグローバル企業としての体制を構築しています。

管理職のマネジメント力強化にも注力しています。当社では、組織のライン上で統括するグループリーダーや部長といった管理職に対する報酬を厚くすることで、意欲ある人材がステップアップできる環境を整えています。また、女性活躍を一層加速させるため、女性の部長を増やすとともに、部長の予備軍となるグループリーダーの育成にも力を入れています。

コーポレート・ガバナンスの強化に関しては、取締役・監査役および執行役員に対して、それぞれの職責や業務に応じた知識を深めるため、さまざまな研修機会を設けています。年1回の役員研修では、コンプライアンスやリスクマネジメントに関して理解すべき重要なテーマを取り上げて知識をアップデートするなど、今後も、グループ全体で健全かつ実効性の高いガバナンス体制の構築を進めていきます。

株主のみなさまへ

2025年5月期は、外部環境の変化により厳しい局面もありましたが、中長期経営目標の目標達成に向けて着実に成長戦略を推進しています。海外自動車市場でのプレゼンス拡大、非繊維領域の強化、社内プロジェクトによるグループシナジーの創出など、将来を見据えた取り組みにより、企業価値

の向上に努めていきます。

近年では個人株主のみなさまが増加しており、たいへん心強く感じています。当社グループの成長をより身近に感じていただけるよう、株主優待制度の充実に取り組むとともに、2025年3月1日には株式分割を実施。単位株の取得に必要な金額を半減させることで、より多くの方にご投資いただきやすい環境を整えました。

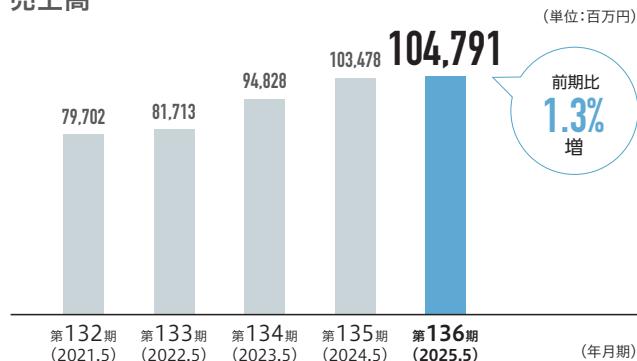
なお、当期の1株当たり配当金は、中間・期末ともに20円の年間40円とさせていただきます。翌期は、中間・期末ともに21.5円の年間43円とさせていただきます。

私たちは、「あらゆる空間に、イノベーションを。」というタグラインのもと、グループ一丸で新たな価値創造に挑戦し、その成果を社員や会社の成長へとつなげていきます。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

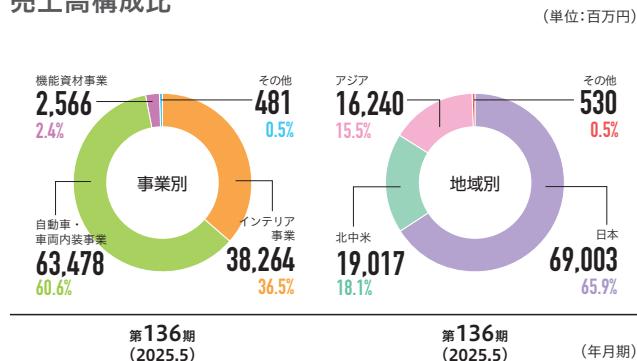


ハイライト

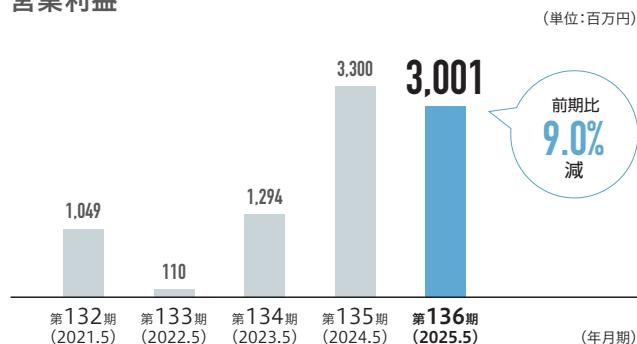
売上高



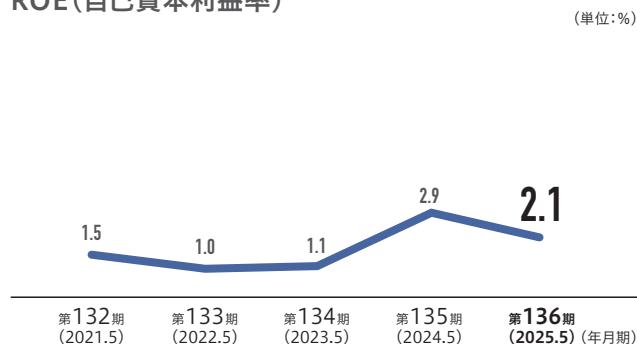
売上高構成比



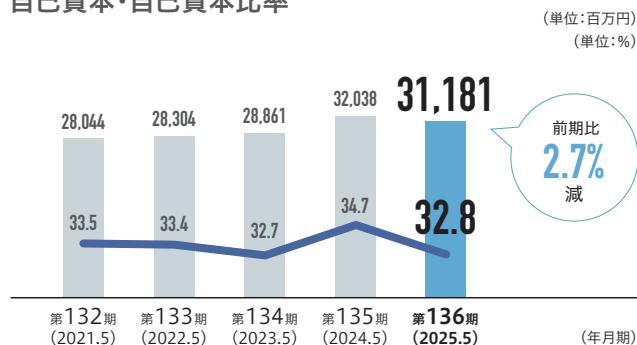
営業利益



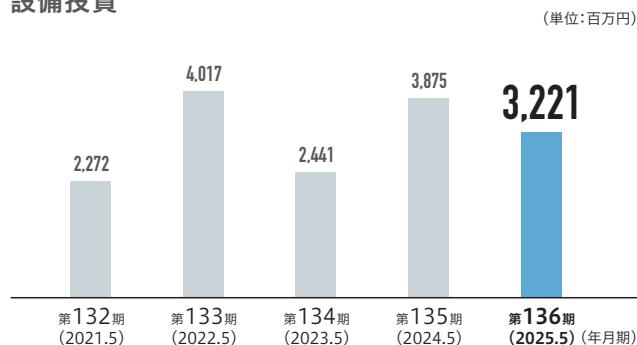
ROE(自己資本利益率)



自己資本・自己資本比率



設備投資



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2024年5月31日現在	2025年5月31日現在
資産の部		
流動資産	50,949	54,931
現金及び預金	8,303	8,847
受取手形、売掛金及び契約資産	15,665	15,976
電子記録債権	7,764	9,423
棚卸資産	16,331	17,097
その他の資産	2,885	3,587
固定資産	41,249	40,045
資産合計	92,199	94,976
負債の部		
流動負債	35,479	42,606
固定負債	19,031	15,206
負債合計	54,511	57,813
純資産の部		
株主資本	21,431	21,324
資本金	9,554	9,554
資本剰余金	2,388	2,388
利益剰余金	12,198	12,358
自己株式	△ 2,709	△ 2,976
その他の包括利益累計額	10,607	9,856
非支配株主持分	5,649	5,981
純資産合計	37,687	37,163
負債純資産合計	92,199	94,976

※ 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2023年6月1日から 2024年5月31日まで	2024年6月1日から 2025年5月31日まで
売上高	103,478	104,791
売上原価	81,202	82,447
売上総利益	22,275	22,343
販売費及び一般管理費	18,975	19,341
営業利益	3,300	3,001
営業外収益	1,103	722
営業外費用	735	1,209
経常利益	3,668	2,514
特別利益	213	542
特別損失	1,132	71
税金等調整前当期純利益	2,749	2,984
法人税等合計	1,168	1,555
当期純利益	1,580	1,428
非支配株主に帰属する当期純利益	706	758
親会社株主に帰属する当期純利益	874	669

連結キャッシュ・フロー計算書

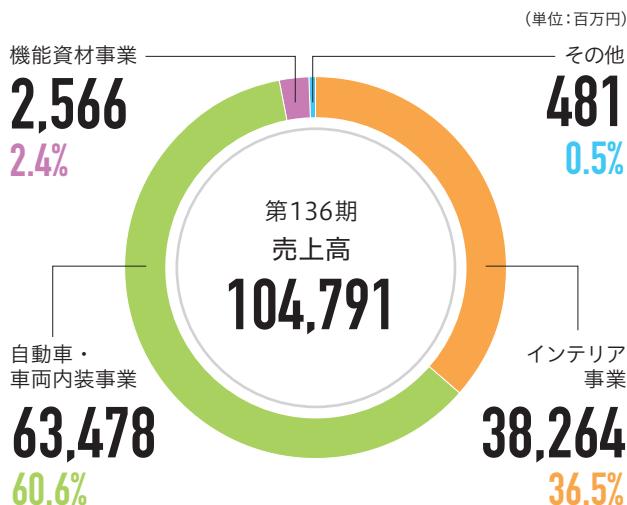
(単位:百万円)

科目	前期	当期
	2023年6月1日から 2024年5月31日まで	2024年6月1日から 2025年5月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,450	2,283
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,323	△ 2,254
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,204	773
現金及び現金同等物に係る換算差額	300	△ 259
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,223	543
現金及び現金同等物の期首残高	6,929	8,153
現金及び現金同等物の期末残高	8,153	8,697

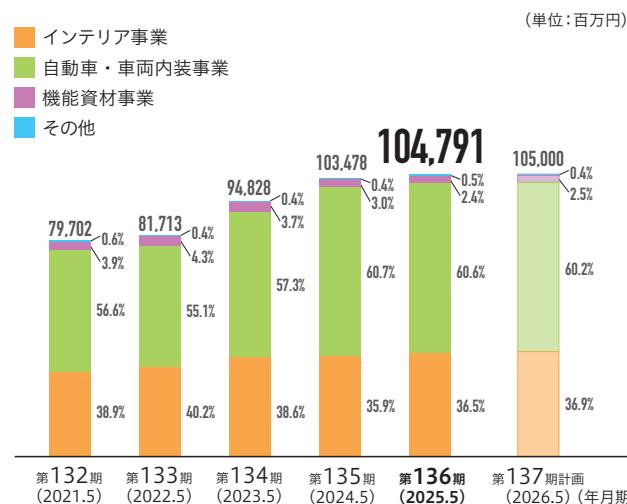
事業概況

セグメント別の概況をご報告申し上げます。

事業別売上高構成比



事業別売上高推移



インテリア事業



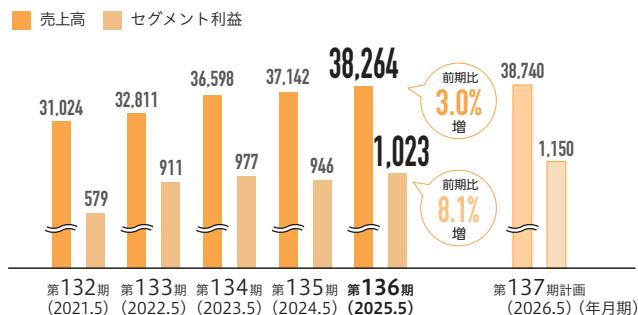
自動車・車両内装事業



機能資材事業



売上高／セグメント利益 (単位:百万円)

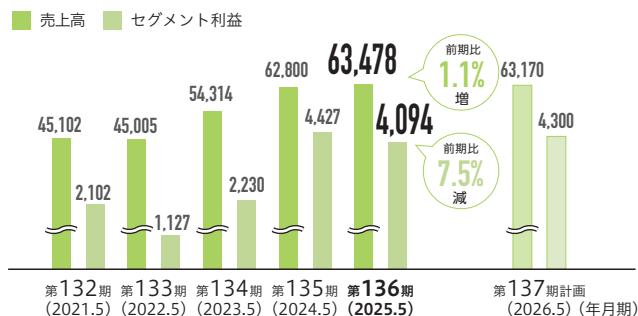


当期の業績

環境性能が高く、幅広いニーズに応えられる水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®(エコス)」が評価され、納入物件数が増加しました。また、タイルカーペットや壁紙の機動的な価格改定などが奏功し、売上高・利益ともに前期を上回りました。

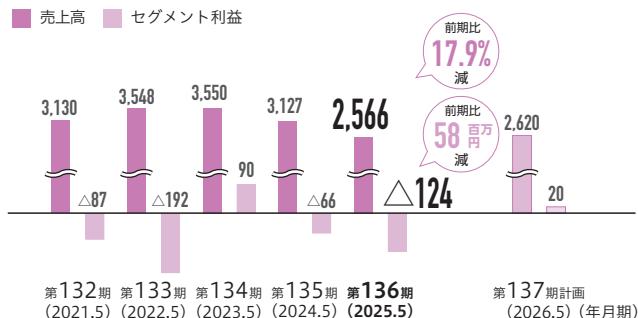
翌期の見通し

インバウンド需要の拡大に伴うホテルなどの新規・改修物件の確実な受注獲得に取り組むとともに、中高級ゾーンに対応した付加価値型製品群のラインナップ拡充とシリーズ化により顧客への訴求力を高め、さらなるSUMINOEブランドの認知向上を目指します。



製販一体となり内需・インバウンド需要の増加に伴う鉄道・バス向け内装材需要の回復に対応し、売上高は前期を上回りました。一方、海外での日系自動車メーカーの販売不振や、生産計画変動による生産効率悪化、それに伴う物流費の増加などにより、利益は前期を下回りました。

自動車関連では、新設した合成皮革工場での高品質な製品の安定供給に注力するとともに、外資系自動車メーカーへの販路拡大を図り、グローバル展開を強化します。車両関連では、内装材のほか鉄道各社における安全・防災対策の取り組み強化に応える提案も進めます。



コロナ禍特需の反動で減少した空気清浄機向けフィルターの需要が回復した一方、長引く市況低迷の影響により繊維系暖房商材の受注数は減少し、浴室床材も一部モデルの転注により出荷数が減少したことから、売上高・利益は前期を下回りました。

近年の暖冬により繊維系暖房商材の受注数回復は期待しがたいものの、季節性にとられない商材や小型生活家電の受注獲得および販路拡大に注力します。また、他事業との連携を強化し、新たな業界への提案型の開発営業を推進します。

特集

SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027から 新しい快適のスタンダードを創るための取り組み

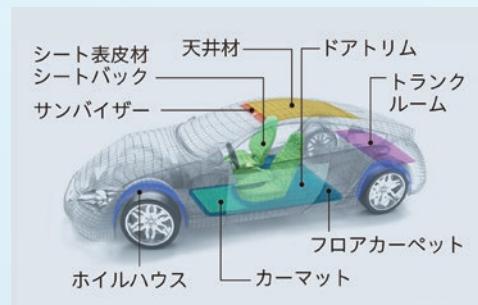
自動車業界は、CASE、MaaSといったキーワードに象徴されるように、100年に一度の大変革期を迎えています。CASEは、自動車の新しい技術やサービスを示す、Connected(コネクティッド)、Autonomous(自動化)、Shared & Service(シェアリング&サービス)、Electric(電動化)の頭文字で、次世代の自動車産業の動向を示すキーワードです。これは当社グループにとっては大きな事業機会であり、多様な変化に応じていくためさまざまな取り組みを進めています。

自動車業界が100年に一度の大変革期を迎えているさなか、当社グループの自動車内装事業においては、足元の市場環境が不確実性を増しています。これまで日系自動車メーカーからの受注が中心であった当社グループは、これから目指す未来に向けて外資系自動車メーカーからの認知度を高めるため、自動車内装事業の強みを活かした高品質で快適な車室空間を提案する活動を進めています。

■ 顧客ニーズに応え、新しい快適のスタンダードを創る開発体制

当社グループの自動車内装事業は、シート表皮材・カーペット・カーマットを中心に商材を展開しています。それぞれの商材に対し、専門的にデザイン・設計開発を行うチームがあり、カーペットの技術をマットに、マットの技術をシート表皮材に、のように技術を掛け合わせつつ、自動車内装をトータルコーディネートできることが当社グループ最大の強みです。

自動車の新型車種開発には約3年を要します。そのため、常にチームそれぞれの専門性のなかで市場とユーザーのニーズをアップデートし、得られた情報を密に共有しながら新規商材の開発・提案を進めています。一方で、新興自動車メーカーは、よりスピーディーに開発を進める傾向があります。そのため、さらにチーム間の横の連携を強化し、より早く、より新しい空間の提案を可能にする体制づくりに努めています。



■ パートナーシップによる世界最適供給体制の強化

当社グループの自動車内装事業における供給体制は国内だけではなく、1994年にタイに会社を設立して以降、現在では海外7カ国13拠点に広がっています。

2022年には、グローバル戦略の一環としてフランスに拠点を置くTESCA groupと自動車用ファブリックに関する業務提携を締結しました。この目的は、当社グループの拠点がなく欧州や南米、TESCA groupの製造拠点がなくアジアでの自動車用ファブリックの開発・生産・販売を相互に支援し合うことにあります。当期は、当社グ

SUMINOE GROUP対応エリア

日本	北米	メキシコ
中国	タイ	インドネシア
インド	ベトナム	

TESCA group対応エリア

欧州	南米
----	----



ループ社員がTESCA groupのフランスとスペインの拠点を訪問し、対面でミーティングを実施しました。そこでは、先行開発品のプレゼンテーションのほか、ビジネスについてのディスカッションや工場見学を通して、両社の持つ素材や設備、顧客への提案方法などの理解を深めることができました。今後はさらにシナジー効果の最大化を目指していきます。



■ 海外でのプレゼンス拡大と次世代の空間提案に向けて

また、当期は、将来の受注に向けてSUMINOE GROUPの強みをPRするため、「Liberate“時間・空間の制約”からの解放」をテーマに、日系自動車メーカーだけではなく新興自動車メーカーを含む外資系自動車メーカーに対しても、サステナブルな新素材および新技術の紹介や、自動車内の空間全体をコーディネートし、提案するプレゼンテーションを実施しました。日本国内のデザイナーをはじめとする開発チームと各海外拠点の営業・開発担当が連携し、各自動車メーカーや地域の特性・ニーズにあわせて提案内容や方法を変えながらアプローチしました。特に新興自動車メーカーに対して、まずは、求めている素材を持っている、どんな要望にも応えられる内装材メーカーであると認知されるとともに、海外市場でのプレゼンスを高めるため、引き続き提案活動を続けていきます。



「あらゆる空間に、イノベーションを。」
“Bringing innovation to all kinds of spaces”

当社グループは、創業以来、常に新しい空間づくりに挑戦してきました。今後、これまで積み重ねてきた技術を力に、柔軟なアイデアで貢献する空間の領域をさらに広げていきます。

タグラインの想いを世界中に広げていくため、SUMINOEは新たな空間の創造に取り組み続けます。

トピックス



インテリア事業

東京ステーションホテルに
当社の別注カーペットが採用

「東京ステーションホテル」は、国の重要文化財である東京駅丸の内駅舎の中に位置し、100年以上前の駅舎で宿泊できる国内で唯一無二のクラシックホテルです。駅舎外観との調和を意識したヨーロピアンクラシックのインテリアは、開放感あふれる高天井と大きな窓の客室、端から端まで300m以上ある廊下、大正創建当時のレンガ壁をそのまま活かした宿泊ゲスト専用ラウンジなど、居心地のよいデザインとなっています。このたび、2012年の東京駅丸の内駅舎保存・復原工事の際に納入したカーペットの部分更新工事が行われ、3階の客室と廊下およびエレベーターホールに、別注カーペットが採用されました。このホテルの特長でもある長い廊下を踏み心地のよいカーペットが彩り、客室への期待感を高めます。また、客室のカーペットは客室タイプによって異なる柄で、それぞれの雰囲気を楽しんでいただけます。

自動車・車両内装事業

スズキ初のEV
新型「e VITARA(e ビターラ)」に
当社の製品が採用

当社グループ会社 Suminoe Teijin Techno Krishna India Pvt. Ltd. で製造するファブリックが、スズキ初のEVとなる新型「e VITARA(e ビターラ)」のシートメイン、ヘッドレスト、ドア表皮材に採用されました。スズキのBEV世界戦略車第一弾のSUVとしてインドで生産し、2025年から欧州、インド、日本など世界各国で順次販売されます。この新型「e ビターラ」は、ベンチレーション機能付きフロントシートにより、高温下でも快適性を実現。新プラットフォームにより広い室内空間と快適な居住性を確保しています。先進感と存在感を両立したエクステリア、タフで質感の高いインテリアデザインによって、先進性と力強さを融合したデザインが特長です。SUMINOE GROUPがグローバルでEV自動車の個性やニーズに応えるべく開発・生産を進めた事例となりました。



自動車・車両内装事業

近畿日本鉄道新型一般車両「8A系」に 当社の内装材が採用

近畿日本鉄道の新型一般車両に、シート地(モケット)と簡易施工型オレフィン系表示フィルム「OHフィルム」が採用されました。同車両は近畿日本鉄道にとって24年ぶりとなる新系列一般形車両で、「鉄道友の会」が選定する2025年「ローレル賞」を受賞しています。利用状況に応じてロングシートとクロスシートを切り換えて適切なシート配置を提供することができるL/Cシートが採用され、車内防犯対策として防犯カメラの設置や消費電力を従来車両比45%削減するなど安全と環境に配慮した車両に、当社のシート地を納入しました。また、新たに設置された、ベビーカーや大型荷物などを持つ乗客が気兼ねなく着席して過ごせる新スペース「やさしば」の床面や、優先座席、出入口に施工するOHフィルムを納入しました。



機能資材事業

大阪・関西万博のBLUE OCEAN DOME 古紙床材プロジェクトに参加

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)で、特定非営利活動法人ゼリ・ジャパンが出展するBLUE OCEAN DOMEのドームCに、古紙を原料としたサステナブルな床材が使用されています。当社は、これまで業界の先駆者としてさまざまな素材からなる床材を世に送り出したノウハウを活かし、特殊な厚紙の製造技術を持つレンゴグループの丸三製紙と協働して、市場でも類を見ない高いリサイクル率の紙の床材を生み出しました。今回の床材は、白板紙の端材を抄紙機で成形後に加熱圧縮した原紙をもとにしており、当社で床材に仕上げるための特殊な加工を行いました。今後は、紙を用いた床材をさらに発展させ、持続可能な社会に貢献できる企業としての存在感を高めていきます。



トピックス

技術・生産本部

ヒト・モノ判別センサの開発

当社独自の水濡れ検知技術で生み出したカバーリング導電糸と京都工芸繊維大学との研究成果を掛け合わせ、ヒトとモノを判別するセンサを開発しました。このセンサは、室内で飛び交う電磁波を利用することで判別するため、センサ自体に電源を必要としない省エネ設計が可能なセンサとして利用できます。特急車両の座席情報収集やスタジアムでのフリーゾーンの空き状況の確認など、個々のニーズや使用環境に合わせたシステムとして、早期の実用化に向けた開発を進めています。



株式情報

株式の状況 (2025年5月31日現在)

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	15,364,324株
株主数	12,976名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社高島屋	1,849	13.97
日本生命保険相互会社	953	7.20
丸紅株式会社	733	5.54
林テレンプホールディングス株式会社	466	3.52
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託ユニチカ口)	357	2.70
SUMINOE 共栄会	307	2.32
SUMINOE従業員持株会	286	2.16
明治安田生命保険相互会社	231	1.74
ヒューリック株式会社	150	1.13
株式会社池田泉州銀行	147	1.11

- ※ 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
 2. 当社は自己株式(2,119,604株)を保有していますが、上記大株主からは除いています。
 また、持株比率は、自己株式を控除して計算しています。
 3. 当社は2025年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。

本報告書、株式に関するお問合せ先

SUMINOE株式会社 本社総務部

TEL : 06-6251-6801 FAX : 06-6251-0862

ガバナンス

役員 (2025年8月28日現在)



永田 鉄平
代表取締役社長



薄木 宏明
代表取締役常務*



村瀬 典久
取締役*



諏訪 和晃
取締役*



川西 浩文
常勤監査役



清水 春生
社外取締役



野村 公平
社外取締役



種田 ゆみこ
社外取締役



加藤 恭子
社外取締役



天知 秀介
社外監査役



宮本 敏彦
社外監査役

執行役員

執行役員 吉澤 朋宏
執行役員 高島 順
執行役員 松波 浩
執行役員 青山 雅一

執行役員 水野 明秀
執行役員 佐々木 和馬
執行役員 服部 太郎
執行役員 上田 研一

執行役員 田村 裕史
執行役員 杉江 伸介

*の取締役は上席執行役員を兼務します。

会社情報

会社概要 (2025年5月31日現在)

会社名	SUMINOE株式会社 SUMINOE Co., Ltd. (住江織物株式会社より2024年12月2日に商号変更)
URL	https://suminoe.co.jp/
本社所在地	〒542-8504 大阪市中央区南船場三丁目11番20号 TEL:06-6251-6801
創業	1883年(明治16年)
合資会社創立	1913年(大正2年12月25日)
株式会社設立	1930年(昭和5年12月26日)
資本金	95億54百万円
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
従業員数	263名(連結2,943名)

国内グループ会社

SUMINOE(株)の事業所

- ① 本社
- ② 東京支店
- ③ 奈良事業所
- ④ 滋賀事業所
- ⑤ 京都美術工芸所
- ⑥ 東関東営業所
- ⑦ 西関東営業所
- ⑧ 名古屋営業所
- ⑨ 広島営業所
- ⑩ 福岡営業所

グループ会社

- ① SUMINOE(株)
- ② (株)スミノエ インテリア プロダクツ
- ③ ルノン(株)
- ④ 住江物流(株)
- ⑤ 関西ラボラトリー(株)
- ⑥ スミノエ テイジン テクノ(株)
- ⑦ 丸中装栄(株)
- ⑧ 住江テクノ(株)
- ⑨ 丹後テクスタイル(株)
- ⑩ 帝人テクロス(株)
- ⑪ 尾張整染(株)
- ⑫ (株)ソーイング兵庫
- ⑬ インテック(株)
- ⑭ (株)シーピーオー
- ⑮ (株)プレテリアテキスタイル
- ⑯ 関織物(株)

各事業の営業拠点

- インテリア ● 自動車内装
- 車両内装 ● 機能資材
- スミノエ ショールーム

海外グループ会社

- ① Suminoe Textile of America Corporation
- ② Bondtex, Inc.
- ③ Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.
- ④ Bondtex Lamination de Mexico, S.A. de C.V.
- ⑤ 住江互太(広州)汽車繊維製品有限公司
- ⑥ 蘇州住江小出汽車用品有限公司
- ⑦ 住江織物商貿(上海)有限公司
- ⑧ 蘇州住江織物有限公司
- ⑨ T.C.H. Suminoe Co., Ltd.
- ⑩ Suminoe Koide (Thailand) Co., Ltd.
- ⑪ PT. Suminoe Surya Techno
- ⑫ PT. Sinar Suminoe Indonesia
- ⑬ Suminoe Teijin Techno Krishna India Pvt. Ltd.
- ⑭ Suminoe Textile Vietnam Co., Ltd.

